

令和5年度 第7回浄水地域会議 会議録

■ 日時 令和5年10月11日(水) 午後7時～8時30分

■ 場所 浄水交流館 大会議室

■ 出席者

<委員> 上田 信也 久世 正敏 郡家 泰広
佐竹 修 土田 洋 土井 英二
堂元 雅昭 成瀬 博文 野畑 安浩

<欠席> 種元 涼湖 三輪 晃久

<交流館> 水野 小百合(浄水交流館長)

<事務局> 松下 誠(地域支援課 副課長) 伴 悠平(地域支援課 主査)

■ 会議次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 答申に向けた協議(グループワーク)
- 4 連絡事項

■ 議事内容(要約)

3 答申に向けた協議(グループワーク)

事前に記入した「意見シート」を基にグループ内で意見交換を実施した。各グループでの主な検討内容は次のとおり。

<Aグループ>

- 総合計画の全体的な方向性については妥当と考える。
- めざす姿について
 - ・地域住民の交流や参加を促進することが求められており、「妥当である」と考える。
 - ・「つくる」がわかりづらい。
- まちづくりの基本的な考え方について
 - ・住民の意識を変え、「あるものを生かす」という発想は大切
 - ・都市構造のイメージではデジタルで連携が可能になる部分もあるが、ヒト・モノの流れをどう連携させるかが重要と考える。
- ミライ実現戦略2030の方向性について
 - ・子どもたちに伝えることは重要だと考える。
- その他の意見
 - ・「少子高齢化」に対する対応指針を示した方がよい。

<Bグループ>

- 総合計画の全体的な方向性については妥当と考える。
- めざす姿について

- ・人と人との「つながり」を深めていくことは目指す姿として妥当。
- ・浄水地域はこれからも変化し続けるが、「変えてはいけないもの」「守り続けるもの」があり、「守る」ということも重要である。

○まちづくりの基本的な考え方について

- ・3つの「変える」について、進めていくべきである。
- ・DXのような利便性を高める施策を肯定的に捉え、率先して改善策を進めるようなまちになることが、この地域の発展に必要なことである。

○ミライ実現戦略2030の方向性について

- ・この横断的な目標に「賛同」する。
- ・横断的な目標が「こども」「愛着・誇り」という単語の表記であり、表現としてはわかりづらい。
- ・例として、「こども」については「こどもを支えるまちづくり」など目標とする方向性を示した方が良い。

○その他の意見

- ・皆が理解できるわかりやすい表現にした方がよい。
- ・市民に対して、総合計画の具体的な内容に関する広報活動が必要だと考える。

■ 今後の予定

次回浄水地域会議

11月8日（水）午後7時～浄水交流館 大会議室